

国土交通データプラットフォームの 利活用促進に向けた実証調査（第2期）

公募要領 参考資料

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた実証調査

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた実証調査の公募（第2期）を開始します！

本実証調査は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」と連携しています



国土交通省



戦略的イノベーション創造プログラム

データ利活用によるDX推進 産官学民の協創・イノベーション

➤ 国土交通DPFの整備と連携拡大

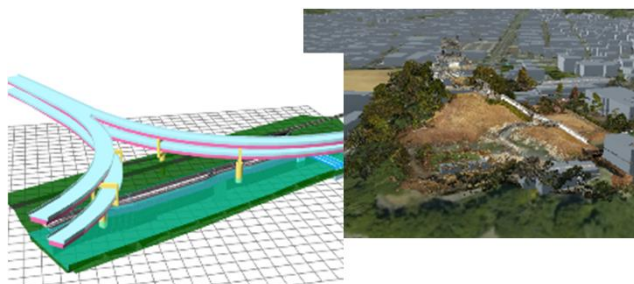
国交省等が保有する29データ・システムと連携し302万件以上のデータが検索可能

➤ 多様なデータ形式への対応

図面・BIM/CIM・点群など約100万ファイルが閲覧・DL可能な環境を整備

➤ 協創による社会実装の加速

産学官民が連携し、国土交通DPFを活用したDX・イノベーションを推進



分野・組織を横断した データ連携基盤の構築

➤ 多様な主体の参画促進

民間・自治体・研究機関等が保有・作成する
インフラ関連データやシミュレーション結果を掲載
データ登録・利用が円滑に行える環境を整備

➤ 国土交通DPFの活用

国土交通DPFを基盤として、分野・組織を越えたデータ連携を実現



AI活用による社会的価値と 連携の可能性を追求

➤ 第1期の成果を土台に、次フェーズへ

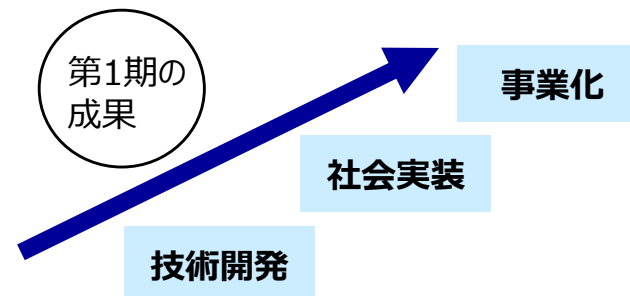
これまでの実証成果を踏まえ、社会実装に向けた取り組みを強化

➤ AI活用による新たな可能性の探求

先端技術を活用、データ利活用の可能性を実証

➤ 持続的な連携基盤の構築

国土交通DPFを活用し、データ提供者・利用者
双方にとって有益なデータ流通の仕組みを構築



募集内容

募集タイプは「データ提供」、「データ利用」、「AI技術活用」の3種類

募集タイプ	実施内容	公募参加にあたっての条件 (一部のみ記載※)	提供データの取り扱い	アプリケーション・サービスの取り扱い
A データ提供者	参加者が保有するデータ・システムと国土交通DPFを接続し、国土交通DPFへデータ提供 ※接続方法は協議の上決定	データ提供後、継続的な更新を実施すること	国土交通DPF上でメタデータ検索・可視化・データ取得可能とする	—
B データ利用者	国土交通DPFが提供する機能を活用したアプリケーションやサービスの創出	利用者向けAPI、GIS利用者向けAPI等の国土交通DPFが提供する機能を活用すること	—	- 国土交通DPFにアプリケーションやサービスの紹介ページを掲載 - アプリケーションやサービスの提供形態（有償・無償）については制限を設けない
	AI技術を活用する場合 インフラ分野へのAI技術活用に向けたアプリケーションやサービスの創出	MLIT DATAPLATFORM MCP Server等のAI技術を活用すること		
C インフラAI共創パートナー	インフラ整備・管理に関連するデータを相互に共有・AI活用が行える枠組みや開発環境等について検討（協調領域と競争領域を整理含む）	- インフラ整備・管理に関連するデータを保有し、保有データの特性等を参加者間で情報共有すること - データをAI技術により活用する知識・経験および環境を保有すること 等	協調領域に該当すると整理されたデータまたはそのメタデータは、国土交通DPFに掲載する	—

- ✓ 実証調査に係る一切の費用は、参加者による負担とする
- ✓ 複数の公募タイプへの併願も可能とする
- ✓ 公募要領により難しい場合は、事務局と協議の上、調整を行うものとする

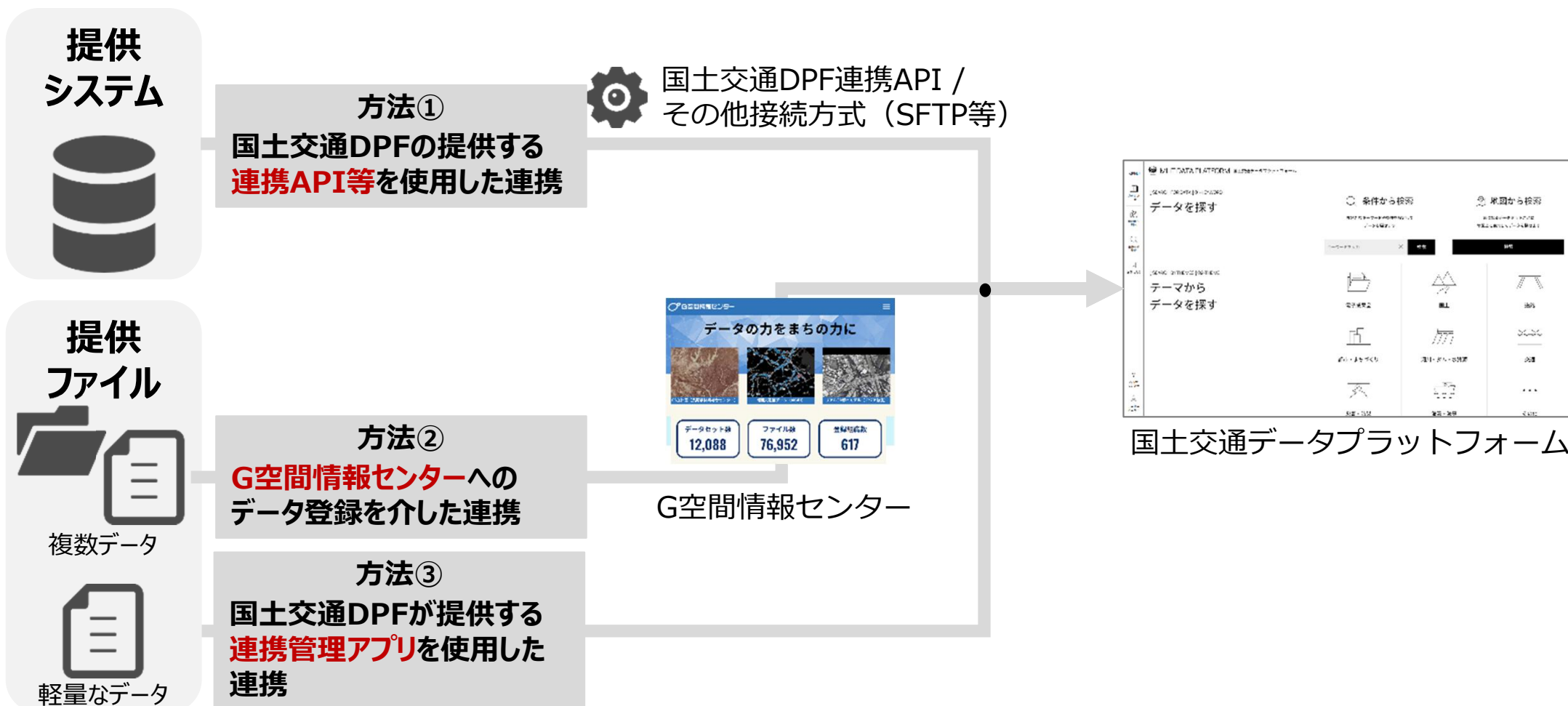
※詳細は公募要領を参照すること

タイプA(データ提供者) 国土交通DPFへの接続方法

タイプAデータ提供イメージ

実証期間内において、接続に必要な要件や仕様を事務局と協議のうえ、最適な接続方式を選定する。

- ・ システムを保有する参加者は、国土交通DPFが提供する連携API等を使用してデータ連携
- ・ データを簡易に提供したい参加者は、G空間情報センターや連携管理アプリを利用して連携
- ・ これらにより難しい場合は、実証期間内において事務局と協議の上進める



タイプB(データ利用者) 取組成果の広報

タイプB成果の外部発信・公表イメージ

- 作成したアプリケーションやサービスの紹介にとどまらず、現場における工夫や実践的な知見を含めて広く発信を行う。
- 技術的な価値のみならず、組織としての取り組み姿勢や強みを対外的に示す機会となる。



コンテンツページでの発信内容

- 公募で開発された**アプリの機能・特徴・活用シーン**を紹介
 - ✓ アプリの目的・どんな課題を解決するか
 - ✓ 国土交通DPFをどう活用したか・技術的なポイント
- 開発アプリを**“作った人”・“使っている人”**にインタビュー
 - ✓ 現場での課題・工夫・想いに焦点

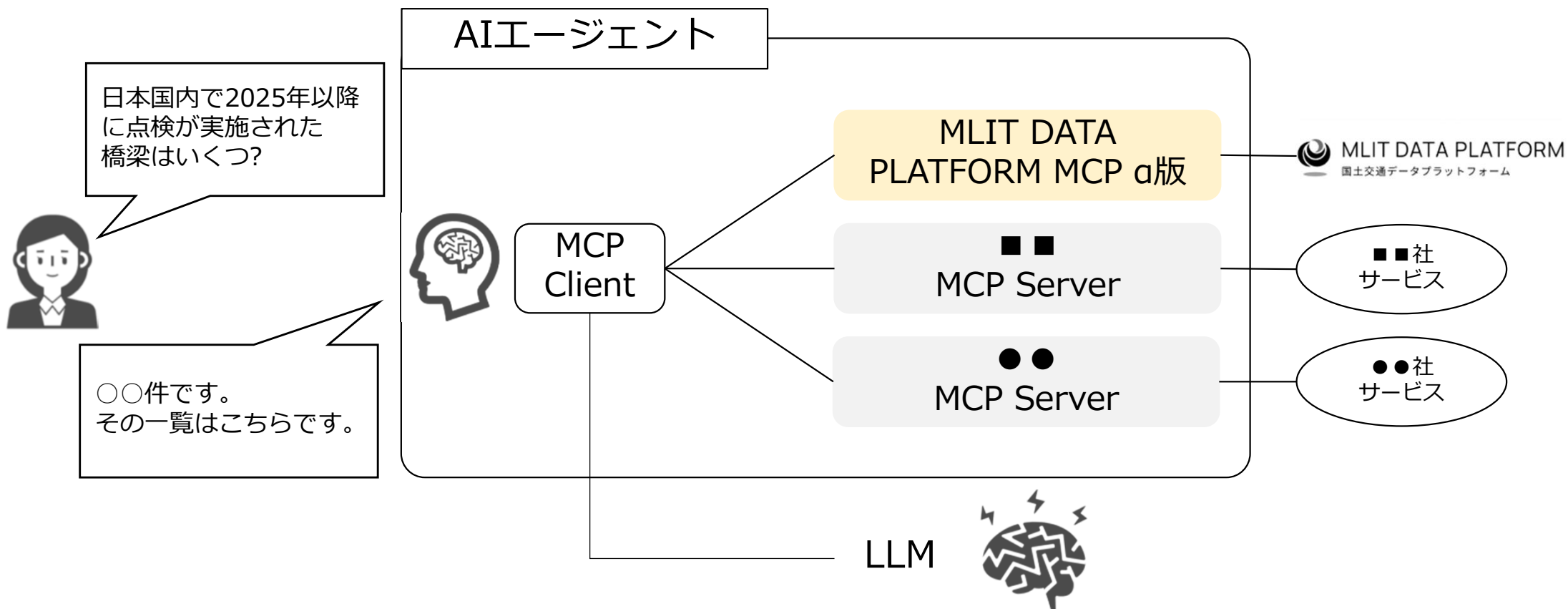
※発信内容は公募参加者と協議の上決定する



タイプB(データ利用者) AI技術を活用する場合

AI技術活用の際は「MLIT DATA PLATFORM MCP Server」も積極的に活用！

- 国土交通DPFが提供するMCPサーバを利用し、AIEージェント開発を実施する
- 国土交通DPFのMCPサーバ単独での利用に加え、他のMCPサーバやLLMと組み合わせて利用することも可能



タイプC(インフラAI共創パートナー) 概要

インフラAI共創パートナー

目的：

インフラ分野でのAI利活用を推進するため、AI学習用データの整備やAIアプリケーション開発等の社会的価値創出に関心のあるコミュニティを組成し、エコシステム構築実現に向けた議論・実証

参加条件：

インフラ整備・管理に関連するデータを有し、保有データの特性等を参加者間で情報共有すること
データをAI技術により活用する知識・経験および環境を保有すること 等

実施内容：

インフラ整備・管理に関連するデータを相互に共有・AI活用が行える枠組みや開発環境等について検討
(協調領域と競争領域の整理含む)

データの取り扱い：

協調領域に該当すると整理されたデータまたはそのメタデータは、国土交通DPFに掲載する



(※This image was created with generative AI)

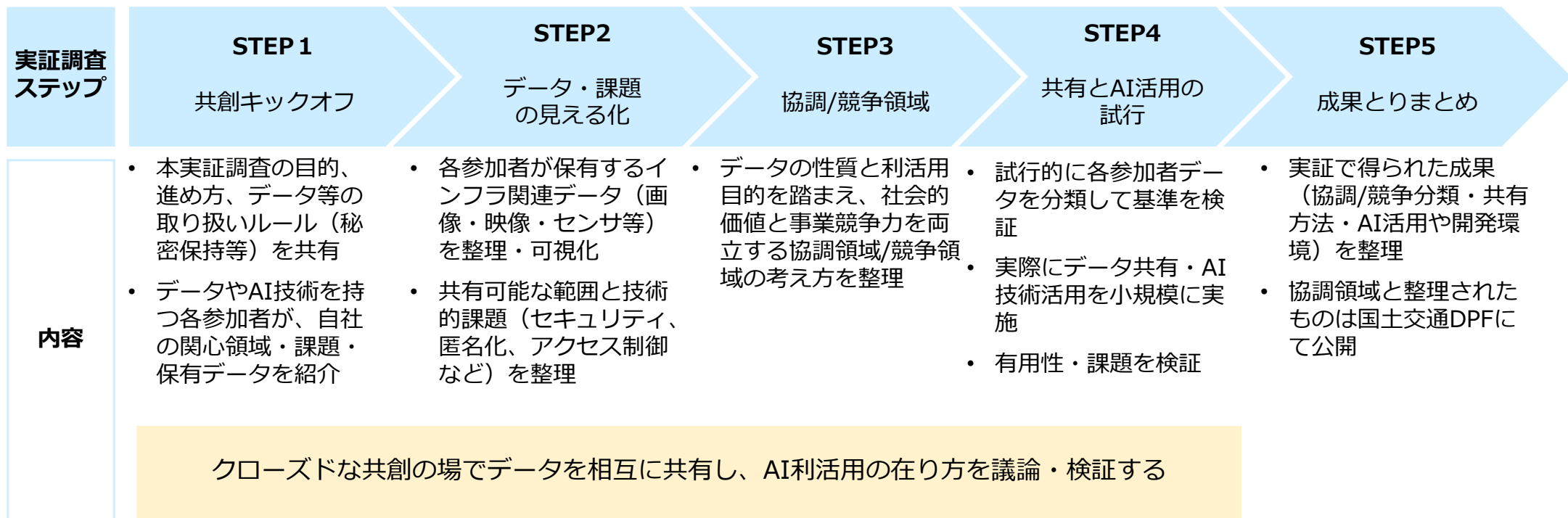
※詳細は公募要領を参照すること

Copyright © MLIT Japan. All rights reserved.

タイプC(インフラAI共創パートナー) 実証調査の進め方

インフラAI共創パートナーの実証調査の進め方（案）

- ・ インフラ分野のAI利活用を議論・共創するコミュニティを形成
- ・ クローズドな環境でデータを共有し、協調領域／競争領域の考え方やAI活用に必要な開発環境等を共に検討する



※進め方の案であり、参加者の意見や実証状況に応じて柔軟に変更・調整する場合がある